

平成28年度  
(2016年度)

平成28年4月1日から  
平成29年3月31日まで

## 事業報告

(大阪薫英女学院中学校・高等学校関係抜粋)



学校法人 薫英学園

# 学校法人 薫英学園

## 平成28年度（2016年度）事業報告 （平成28年4月1日から平成29年3月31日まで）

平成28年度予算（当初予算に加え、補正予算を実施）に計上した事業は、概ね予定どおり実施いたしました。その事業概要は、以下のとおりです。

### I 法人の概要

学校法人薫英学園は、大学・大学院、高等学校、中学校及び幼稚園の5部門で構成しております。法人及び各設置校園の概要は、次のとおりです。（高等学校、中学校関係抜粋）

#### (1) 法人の沿革

昭和6(1931)年6月	私塾薫英女子学院創設（大阪市東淀川区木川）
昭和8(1933)年7月	各種学校令による私立薫英女子学院設立認可
昭和13(1938)年7月	薫英女学校（修業年限4年）に名称変更
昭和16(1941)年3月	財団法人 薫英学園設立並びに薫英高等女学校（修業年限5年）設置認可
昭和18(1943)年4月	全校生徒正雀学舎に移転完了（大阪府摂津市正雀）
昭和22(1947)年3月	薫英中学校設置認可
昭和23(1948)年3月	学制改革による薫英高等学校設置認可
昭和26(1951)年3月	財団法人薫英学園を学校法人に組織変更認可
昭和40(1965)年9月	薫英中学校廃止認可
平成2(1990)年4月	薫英高等学校普通科に国際コースを設置
平成8(1996)年4月	薫英高等学校に国際科開設
平成9(1997)年3月	大阪薫英女学院中学校設置認可
平成9(1997)年4月	大阪薫英女学院中学校開設
	薫英高等学校を大阪薫英女学院高等学校に名称変更認可
	大阪薫英女学院高等学校普通科に文理コース・総合コースを設置

#### (2) 所在地

大阪薫英女学院高等学校（昭和16年4月開設）

〒566-8501 摂津市正雀1-4-1 Tel.06-6381-5381

大阪薫英女学院中学校（平成9年4月開設）

〒566-8501 摂津市正雀1-4-1 Tel.06-6381-2345

(3) 収容定員・現員と教職員数（平成 28 年 5 月 1 日現在）

設 置 校 学 部 ・ 学 科 名	収容定員	現 員	教 育 職 員		事 務 職 員	
			専任	非常勤	専任	パート タイマー
大阪薫英女学院高等学校	1,320	734	56	14	8	8
大阪薫英女学院中学校	360	150	13	6	3	1
計	1,680	884	69	20	11	9

## II 事業の概要

### 〔高等学校・中学校関係〕

#### 1 教育活動の充実

次の学科及びコースで実施しました。

学 科	コ ー ス
普 通 科	文理特進、英語進学、総合進学、スポーツ・特技
国 際 科	スーパーアドバンスト、スーパーイングリッシュ

#### 2 海外留学

##### (1) 長期留学

海外留学は、ニュージーランドへ高校生 55 名（姉妹校 22 校）中学生 33 名（姉妹校 13 校）及びカナダへ高校生 18 名（姉妹校 5 校）の生徒が 1 年間留学し、英語力の習得はもとより、国際感覚の醸成や国際交流に努めました。

1988 年にカナダ留学から始まった海外長期留学は今回で 30 回目、中高一貫のニュージーランド留学は 18 回目を数えますが、これまで 4,000 名を超える生徒が留学に参加しています。

##### (2) 短期留学

普通科英語進学コースでは 2012 年から夏休みの期間を利用して、約 1 ヶ月のニュージーランド短期留学を実施しています。本年度は 20 名の参加で北島北部の 5 校の姉妹校で研修をしました。

#### 3 海外研修、国際交流

##### (1) スカラー生の受け入れ

高等学校では、スカラー生としてニュージーランドの姉妹校から 2 名の留学生を受け入れており、高校 1 年生の普通科クラスに在籍し、日本語の習得をはじめ、歴史・伝統芸能・慣習等を学習するとともに、本校生徒と異文化交流、友好親善を図りました。

##### (2) 姉妹校との交流

年間を通じてニュージーランド、カナダ姉妹校から学校長、国際部長など学校関係者の訪問があり、保護者会等への出席を通じて交流を図りました。また、入学式、卒業式には海外姉妹校の学校長を招待しています。また、式典中に留学を体験した生徒代表生が謝辞を英語で述べる機会があり、そのスピーチは毎回留学の成果を示すものになっています。

### (3) 夏季海外研修の実施

7月13日から7月29日までの期間で、カナダ短期研修を実施しました。参加者は年々中学生の数が増え、長期留学の事前留学経験のような機会となっています。カナダ・ウイニペグでの研修は、現地校を借りた本校用の特別プログラムの実施で、アクティビティと英語研修を巧みに融合した流れで、まさに「楽しみながら英語を学ぶ」体験が得られました。

## 4 生徒募集

少子化が進む中で、喫緊の課題である生徒確保に向け、保護者対象の進学説明会や個別相談会の開催に加え、学校・塾への訪問を積極的に行うなどの取り組みを行いました。

また、中学校では、これまでに引き続き、中高一貫教育の良さを、高等学校については、留学制度を中心とする国際性及び有名大学への豊富な進学実績という、本校の特色をアピールして定員確保に努めました。

### (1) 保護者対象進学説明会（含むオープンキャンパス）

中学校	（実施回数 5回	参加件数 132件）
高等学校	（実施回数 6回	参加件数 585件）

### (2) プレテスト

中学校受験希望者を対象に10月、11月に実施し、66名が受験しました。

### (3) 個別相談会の実施

中学校	（実施回数 3回	参加件数 15件）
高等学校	（実施回数 3回	参加件数 96件）

### (4) 学校訪問等

訪問校数（延べ数）中学校 1,261回訪問 塾 4,693回（1,777塾）訪問

### (5) 塾対象学校（入試）説明会

春の説明会 228塾 秋の説明会（1日実施に変更） 177塾

## 5 「英検」（実用英語技能検定）の実績

本年度、本校に在籍する生徒の中で「英検」各級取得者数は、1級5名、準1級87名、2級343名、2級582名、3級232名と大きな成果を収めています。なお、高校生が取得できる割合が1%といわれる超難関の1級合格は15年連続を更新し、15年の歴史の中でも初めて5名の快挙となりました。また、英検準1級に留学前の中学生3名が合格したことも、本校における取り組みの大きな成果となりました。

## 6 Kun-ei Kids（クンエイ・キッズ）の実施

Kun-ei Kidsとして、小学校4、5、6年生を対象に、6月から10月にかけて10回にわたり英会話講座を開講しました。参加者は、本校の様子を身近に知ることができるなど、本校受験への大き

なきっかけとなっており、募集対策の一因ともなることから、引き続き内容の充実に努めました。

## 7 薫英杯女子中学生英語スピーチコンテストの実施

ニュージーランド、カナダの両大使館、大阪府教育委員会などの後援を得て、文化の日に実施しました。29校の中学校代表29名が暗唱スピーチを披露しました。

## 8 施設・設備の充実

- (1) 高校・中学学舎の空調設備（冷温水発生機）の更新を行い、教育環境の整備・改善を図りました。
- (2) 放送設備の更新を行い、各種行事等の校内への伝達の円滑化を図りました。
- (3) 安全・安心対策として防犯カメラの更新や高校・中学通用門の改修等を行い、防犯面の機能強化を図りました。

## 9 その他（クラブ活動実績）

### (1) 陸上競技部

- ① 陸上競技部は、女子第32回大阪高等学校駅伝競走大会において優勝し、大阪府の代表として女子第28回全国高等学校駅伝競走大会に11年連続11回目の出場を果たしました。本大会では、2年ぶり2回目の全国優勝を達成しました。
- ② 皇后盃第35回全国都道府県対抗女子駅伝に、高校生6名と卒業生1名が選手として出場しました。
- ③ 女子第32回近畿高等学校駅伝競走大会では2年連続2回目の優勝を達成しました。
- ④ 全国の強豪校が参加した第28回選抜女子駅伝北九州大会において、2大会連続2回目の優勝を達成しました。
- ⑤ 個人では、第100回クロスカンントリー日本選手権大会のジュニア6km個人の部と団体の部の両部門で優勝を達成しました。
- ⑥ また、第42回世界クロスカンントリー選手権大会（ウガンダ）の日本代表として、高松智美選手がジュニア6kmに出場、日本人最高順位の15位という成果をあげました。
- ⑦ さらには、秩父宮賜杯第69回全国高等学校陸上競技選手権大会（全国インターハイ）の女子3,000mに2名が出場し、うち1名が、日本高校歴代第3位の好記録で第3位に入賞を果たしました。

### (2) バスケットボール部

#### ① 中学校バスケットボール部

「第70回大阪中学校バスケットボール選手権大会」に優勝（5年連続）し、「第65回近畿中学校総合体育大会」に優勝したことから、全国大会への出場を果たしました。

出場した「第46回全国中学校バスケットボール大会」においては決勝トーナメントへの進出を果たしましたが、惜しくもベスト16という結果となりました。

#### ② 高校バスケットボール部

「第69回大阪高等学校バスケットボール選手権大会」に優勝した後、「第63回近畿高等学校バスケットボール大会」には8年連続30回目の優勝という輝かしい成績を収めました。

昨年度は全国大会のどちらもベスト16という結果でしたが、今年度はU-17、18日本代表の

選手を中心としてチームを構成し、「第 69 回全国高等学校バスケットボール選手権大会（インターハイ）」では第 3 位という成績を収めました。「第 71 回大阪高等学校総合体育大会バスケットボール大会」でも優勝を果たし、「第 47 回全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会（ウィンターカップ）」では 4 位という結果となりましたが、高校バスケット創部以来初の夏・冬両方ベスト 4 という結果を収めるなど、全国レベルでも大きな成果をあげました。

(3) フィギュアスケート部

「H28 年全国高校総合体育大会フィギュアスケート選手権大会」において団体初優勝しました。個人では 2 年生の岩元こころさんが、個人総合 3 位、2016 年アジアントロフィー 4 位、2016 年ジュニアグランプリ・ロシア大会 5 位、2016 年全日本ジュニア選手権大会 10 位の成績を収めました。

以上